

F.P. トスティ歌曲における詩と音楽のリズムについて

著者	栗原 光太郎
雑誌名	東京音楽大学大学院博士後期課程 2017年度博士共同研究A報告書《リズム×創造性》
ページ	7-18
発行年	2018-03-31
出版者	東京音楽大学
著者版フラグ	publisher
URL	http://id.nii.ac.jp/1300/00001206/

F.P.トスティ歌曲における詩と音楽のリズムについて

栗原 光太郎

About the rhythm of poetry and music in F.P.Tosti's songs

Kotaro KURIHARA

はじめに

2017 年 12 月 16 日の博士共同研究 A の発表では、トスティが詩のリズムを大切に音楽にしていた、さらに、詩の意味を遵守していた当時はまだ珍しいイタリア歌曲作曲家であったのであると定義して、彼がダンヌンツィオのイタリア語の詩に曲をつけた《2 つの小夜想曲 Due piccoli notturni》のうちの 1 曲、〈薔薇の香りが漂い Van li effluvi de le rose dai verzieri〉のリズムを検証することとした。

フランチェスコ・パーオロ・トスティ

フランチェスコ・パーオロ・トスティ Francesco Paolo Tosti (1846-1916) は、イタリア中部アブルッツォ州オルトーナ出身の作曲家・声楽家・声楽教師である。

12 歳の若さでナポリ音楽院 Conservatorio di musica San Pietro a Majella に入学。対位法と和声をカルロ・コスタ Carlo Costa (生没年不明)、作曲をカルロ・コンティ Carlo Conti (1796-1868) とサヴェリオ・メルカダント Saverio Mercadante (1795-1870) から学んだ。当時のナポリ音楽院には《フニクリ・フニクラ Funiculi-funiculà》などで有名な同い年のルイージ・デンツァ Luigi Denza (1846-1922) らがいた。

トスティは特に歌曲の作曲家として知られ、70 歳でこの世を去るまで、イタリア語、英語、フランス語の詩に約 370 曲作曲した。

トスティとダンヌンツィオの共同作業

トスティとガブリエーレ・ダンヌンツィオ Gabriele D'Annunzio (1863-1938) は、ともにイタリア中部アブルッツォ州キエーティ県の出身である。二人は同郷の写真家・画家のフランチェスコ・パーオロ・ミケッティ Francesco Paolo Michetti (1851-1929) のサロン「チエナーコロ」で 1880 年に出会っている。

当時、トスティは 34 歳、ダンヌンツィオは 17 歳。1880 年はまさにダンヌンツィオが詩人としてデビューする年で、地元で注目を集めていた。これに対してトスティは既に歌曲作曲家として活躍していた。ダンヌンツィオはトスティの音楽に魅了されていたようで、ダン

ヌンツィオがトスティのために詩を提供する形で生まれたのが二人の最初の作品である《幻影 Visione!...》(1880 年)であった。

トスティがダンヌンツィオの詩を用いた歌曲は全部で 34 篇であるが、次に多いのがロッコ・E.パッリヤーラ Rocco E.Pagliara (1857-1914) の 17 篇なので、ダンヌンツィオは特別な存在であるということが出来る。リコルディ社から出版されている全 14 巻のトスティ歌曲全集において、1 つの巻に詩人の名前が冠されているのがダンヌンツィオだけであることから、いかに大事な詩人であったかがわかる。

彼らは 17 という歳の差はあったが、お互いの詩と音楽を気に入り、トスティのためにダンヌンツィオが詩を書くという良好な関係を続け、1880 年から 1892 年まで、時期によっては二人の故郷に近いフランカ・ヴィッラで共同生活を行いながら制作活動を展開している。二人の作業は、1892 年から 1907 年まで長い休止期間を経るが、1907 年に共同作業が再開された後、その形態が変化してダンヌンツィオの既出版の詩を用いるようになる。共同作業の後期は 1907 年からトスティが亡くなるまで続いている。

尚、今回対象とした〈薔薇の香りが漂い〉を含む《2 つの小夜想曲》は、共同作業の後期の作品で、2 曲からなる。これらは既に出版されたダンヌンツィオの詩からトスティが歌詞となるものを選び、1911 年 9 月に作曲され、同年 10 月に出版されている。

詩について

〈薔薇の香りが漂い〉の詩と音楽のリズムを検証するにあたり、最初に 3 つの観点から詩の分析を行った。

1 点目はアンジャンプマンである。本来であれば、詩の意味は各行ごとに、ピリオドやコンマを打って完結することが原則であるが、しばしば次の行や節を超えて意味が続いている場合がある。それをアンジャンプマンと言う。

2 点目は意味上の区切れである。詩行の途中にコンマなどが置かれ、意味が大きく切れる場合がある。それを意味上の区切れと呼ぶ。

3 点目は trocheo である。trocheo とは、詩行の伝統的なリズムで、アクセントのある音節の後にアクセントの無い音節が続き、そのリズムによって強弱、または長短のリズムを生み出している。

【アンジャンプマンと意味上の区切れの例】(+…アンジャンプマンの場所、▲…意味上の区切れの場所)
〈薔薇の香りが漂い〉第 2 節第 1 行～第 2 行

6 行目途中にコロンがあり、その下に▲のマークがあるが、ここが、意味上の区切れである。また 5 行目の行末にある+の記号、これがアンジャンプマンである。

L'aspro vin di giovinezza brilla ed arde +

形: 酸味のある 名・男: ワイン 名・女: 青年期 自: 輝く 他: 燃やす、焼く

青春のすっぱいワインは輝き、燃えている

ne le arterie umane: reca l'aura a tratti

名・女: 動脈 形: 人間の 他: 運ぶ 名・女: そよ風 名・男: (a tratti で) あちこちで



人の動脈の中で。時折そよ風が運んでくる

【trocheo のリズムの例】(●印が詩行の中でアクセントのある音節)

〈薔薇の香りが漂い〉第3節第1行

このイタリア語を朗読して読むと、

Spiran l'acque a i solitari lidi; vanno,

● ● ※ ● ● ● ●

というふうになる。これはトロケーオのリズム、つまりアクセントのある音節とアクセントの無い音節を交互に繰り返している。尚、※の部分について、イタリア語では母音融合(語の母音と次の語の語頭の母音を縮合によって一音に結合すること)によって素早く読む習慣があり、ここでもアクセントの無い音節として、1音節と数える。

これら3つの点を踏まえて、〈薔薇の香りが漂い〉の全文と照らし合わせてみる。

〈薔薇の香りが漂い Van li effluvi de le rose da i verzieri〉全文

左側に原文、右側に対訳を載せた。+はアンジャンブマンの場所、▲は意味上の区切れの場所である。

“Due piccoli notturni” N°1

《2つの小夜想曲》より第1曲

Van li effluvi de le rose da i verzieri

庭から薔薇の香りが漂い

da le corde van le note de l'amore,

愛の調べが弦から響き渡る、

lungi van per l'alta notte

+

魔法でいっぱい深い夜の中に

piena d'incantesimi.

遠く過ぎていく。

L'aspro vin di giovinezza brilla ed arde

+

青春のすっぱいワインは人の動脈の中で

ne le arterie umane: reca l'aura a tratti

+

輝き、燃えている。時折そよ風が



un tepor voluttuoso

+

女性の息の

d'aliti feminei.

色っぽいぬくもりを運んでくる。

Spiran l'acque a i solitari lidi; vanno,

ひと気のない岸边に水が吹かれ、

van li effluvi de le rose da i verzieri,

庭から薔薇の香りが漂う、漂いあらわれる。

van le note de l'amore

愛の調べがはるかに響き渡る

lungi e le meteore.

流星とともに。

栗原 光太郎 訳

この曲は全部で 4 行 3 節になる。脚韻は踏んでいない。各節の第 1 行と第 2 行はそれぞれ 12 音節あり、逆に第 4 行は 7 音節であるなど各行の長さが異なる。またイタリア語の詩は多くの場合、奇数音節数であることが多いが、この詩の場合は各節の第 1 行、第 2 行が 12 音節、第 3 行が 8 音節であるなど偶数行が多く、本来のイタリア語の詩の在り方からかなり逸脱した自由詩である。しかし、1 節あたり 4 行で 3 節から成り、詩の伝統的な trocheo (強弱格) のリズムを持っている。アンジャンブマンは 第 1 節第 3 行～第 4 行、第 2 節第 1 行～第 2 行、第 2 行～第 3 行、第 3 行～第 4 行で起こっている。意味上の区切れは第 2 節第 2 行と第 3 節第 1 行で用いている。

それでは、この詩の分析結果を音楽に照らし合わせる。

詩と音楽のリズムについて

詩の分析結果を音楽に照らし合わせてみると、トスティは 4 箇所アンジャンブマンに対応して、行が変わっても旋律をつないだ。

- ・ 第 8 小節、第 14 小節、第 17 小節、第 18 小節

譜例 1: 〈薔薇の香りが漂い〉 第 12～14 小節 (第 2 節第 1 行～第 2 行)

A'

12

L'a-spro vin di gio-vi - nez - za bril - la ed ar-de ne le ar-te rie u -
形: 酸味のある 名・男: ワイン 名・女: 青年期 自: 輝く 他: 燃やす 前...の中で 名・女: 動脈

青春のすっぱいワインは人の動脈の中で輝き、燃えている。

一方、意味上の区切れに対応して、それぞれ休符を配置して意味の纏まりを明確にした。

- ・ 第 15 小節、第 22 小節

譜例 2: 〈薔薇の香りが漂い〉 第 15~17 小節 (第 2 節第 2 行)

意味上の区切れに対応して休符を配置

アンジャンプマンに対応して接続

-ma - ne: re - ca l'au - ra a trat-ti un te-por vo-lut-tu-
形: 人間の 他: 運ぶ 名・女: そよ風 名・男: あちこちで 名・男: ぬくもり 形: 扇情的な

人間の動脈の中で。時折そよ風が色っぽいぬくもりを運んでくる

次に、詩のトローケーオのリズムへの対応も確認してみる。この〈薔薇の香りが漂い〉の詩の第 1 行を朗読すると、

Van lieffl uvi de le rose dai verzieri
① 2 ③ 4 ⑤ 6 ⑦ 8 ⑨ 10⑪ 12

となるが、アクセントのある音節のあとにアクセントの無い音節が続き、強弱のリズムを生み出している。

それでは、トスティの書いた旋律と比べるためにこの行につけられた旋律をリズム読みしてみる。

譜例 3: 〈薔薇の香りが漂い〉 第 3~4 小節 (第 2 節第 2 行)

Van li ef - flu - vi de le ro - se dai verzie - ri,

最初の 2 つの音節にはそれぞれ 4 分音符でアクセントのあるなしの組み合わせとし、それ以降 4 つの組み合わせにはそれぞれ 8 分音符で対応し、最後の組でまた 4 分音符での対応となる。すなわち、音価は異なるが、アクセントを持つ音節が必ず表拍に置かれている。こうしてトローケーオのリズムを音楽的に守っている。

トスティはこの曲において 1 曲を通して詩のリズムに沿った書き方をしているが、このように詩のリズムを大切にし、音楽と一致させる書き方は彼の曲の多くで見られる。

音楽において詩を重視している、詩を生かす表現について

次に、楽曲そのものを分析してみる。まず、構造を見ると、この曲は AA'B で三部形式の形である。即ち、元々の詩の節と音楽の構造が一致している、詩の構造が音楽的に守られている形である。〈薔薇の香りが漂い〉は通作ではあるが有節的な通作であると言うことが出来る。A は 3 小節目から、A' は 12 小節目から、B は 21 小節目からとなるので、A、A' は 9 小節目ずつ、B は 12 小節でそれぞれ音楽を構成している。

では、この A と A' は何が違うのか、比較してみたい。A と A' を比較してみると、非

常に似ているが、A で見せた形を、A'で崩す、いわばバリエーションのように見える。たとえば、

- ・第1節第1行～第2行（第3小節～6小節）
- ・第2節第1行～第2行（第12小節～15小節）

譜例 4: 〈薔薇の香りが漂い〉 第3小節～6小節（第1節第1行～第2行）

CANTO

Van li ef-flu-vi de le ro-se dai verzie - ri, da le cor-de van le no-te de l'amo - re,

譜例 5: 〈薔薇の香りが漂い〉 第12小節～15小節（第2節第1行～第2行）

L'a-spro vin di gio-vi - nez - za bril - la ed ar-de nelear-te ricu - -ma . ne:.....

これらの関係について、それぞれの節の1小節目は同じリズムである。しかし、2小節目から異なる。

第1節の2小節目では8分音符4つと4分音符2つ、第2節の2小節目では4分音符4つが並ぶ。さらに、第1節では3小節目では4分休符を入れている。第2節においてはアンジャンプマンをつないでいるが、それだけにとどまらず、つなげるために第1節に対して音形を変えていると言えることが出来る。

詩の内容から見ても、第1節では庭から薔薇の香りがする、と夢のような景色を流れるように歌うのに対して第2節では、青春の輝きを1つ1つ強調して歌うために4分音符4つを充てているように思われる。

一方、Bでは首句反復があり、第1節第1行の Van li effluvi de le rose da i verzieri を再び口にする箇所がある。この首句反復をする部分が A のリズムの原形に対して変形のように思われる。第3節の4小節目では付点4分音符と8分音符9つ、そして4分音符2つを充てている。

さらに和声について、この A と A'はどちらも変ホ長調のI度の和音から始まっているのに対して、BはVI度の和音からはじまる。またAはト音から始まるのに対して、Bではロ音からはじまり、どこかいたたまれない響きを感じる。

譜例 6: 〈薔薇の香りが漂い〉 第 21 小節～第 26 小節 (第 3 節第 1 行～第 2 行)

B

意味上の区切れに対応して休符を配置

21 Spi - ran l'acqueai so - li - ta - ri li - di;..... van - no,.....

24 *a tempo* van lief - flu - vi de le ro - se dai ver - zie - ri,.....

VI III¹ C: $\frac{3}{4}$

G: I

詩の内容に対応して A では夢の中の景色、A'では青春が思い出されて心の湧き上がる様子、B には過去を振り返るような描写をトスティが行っているのではないかと。

トスティの自然描写に対する姿勢の一端が見受けられるように思う。

さて、今度は旋律の観点から見ていく。もう一度譜例 4、5 を見てほしい。

A では 2 小節目からニ変ロートへ、と下行して、次のフレーズの冒頭で主音の変ホに至る。

A と A'ともにこの旋律を基本の音形としている。第 1 節 3 小節目の 1 拍目は行で切るために間に休符を入れた。そのためにリズムを細かくしている。また 2 小節目ではニ音から変ロ音に移りたいので、経過音としてハ音を入れた。ト音、ヘ音のあとに 1 拍休んで変ホ音が来るようにしている。

また、3 小節目の 2 拍目は主音の変ホからはじめたい。それに合わせるために以降は 8 分音符を 10 並べている。

A'は旋律の原形は残しつつ、もう少し複雑で、ニ変ロー変イトと行き、そして最終的に主音の変ホに至る。それによってニ変ロー変イトへ変ホ変ホとしている。

A も A'も主音の変ホを目指すために間の音を変えたと言うことが出来るだろう。

次に、長さが特徴的であるのが A' の 3 小節目と 4 小節目である。ここでは *umane* (形容詞: 人間の) の部分を長く歌わせ、アクセントがある *ma* を伸ばしたい。そのために、3 小節目で 8 分音符 2 つと 4 分音符 2 つを並べ、4 小節目の 2 分音符へと持って行ったのではないか。A においてはそうする必要がなかったため、3 小節目 2 拍目から 8 分音符のまま上がって行った。

A の第 5 小節目では、早く言いたい言葉とゆっくり言いたい言葉の違いが見られる。

ゆっくり言いたい *lungi* (副詞: はるかに) と、*notte* (名詞: 夜) のために、4 分音符 2 つ、8 分音符 4 つ、4 分音符 2 つを並べている。

また、*lungi* では、早くもこの曲の最高音が現れる。ピアノパートに *col canto* と書かれているため、歌のパートには書かれていないが、*a piacere* だと思われる。P から *cresc.* をかけており、最高音ではあるが強い音ではない。この詩の意味を表現するにあたって強い音は求めなかったのではないか。

こうした姿勢も、トスティの歌曲には多く見られる特徴である。

A' は 5 小節目からがその部分にあたる。6 小節目の *tratti* (名詞: 特徴) は短くして構わなかったと思われ、4 分音符 3 つ、8 分音符 10 個を並べている。しかも、A ではその 6 小節目の 3 拍目から次の行を開始しているのに対して、A' では 6 小節目の 2 拍目から次の行がはじまっている。

それを踏まえ、A' では 1 行目を除いて 2 行目以降すべて 2 拍目からはじまるように揃えている一方、A ではそれを揃えていないことが分かった。

おそらく A では 7 小節目の 1 拍目に *incantesimi* (名詞: 魔法をかける) の *-te* を置くようにし、また、A' では 7 小節目の 1 拍目に *voluttuoso* (形容詞: 扇情的な) の *-oso* の *o* を置くようにしたかったのではないか。

これらは詩の内容に寄り沿った音価であると言える。

即ち、A では前の言葉の開始を少し早めて、*-te* の長さを生かすこと、さらに、*notte* がゆっくり歌えるようにするための時間を取った。A' では *-oso* 強拍に置いて強めたいが、その前に言葉がたくさんある、詩の中に音節がたくさんあるために言葉の開始を早めて 2 拍目からはじめた。A のほうでは 3 拍目であるが、A' では 2 拍目からと、1 拍早めて多くの言葉を言う時間を取った。

こうして、旋律や和声においても詩の内容とリンクして現実世界とは異なった夢のような景色を感じられる部分が多く見られる。

まとめ

特に A と A' を見比べると同じ旋律的な動きで似たリズムであるが、ここまで見てきたように、言葉のつながりや、どの言葉を強調してゆっくり読むか、あるいはどれだけの長さの中に言葉を言わなければならないかということによって自由にリズムを対応させている。

のばしたり、縮めたりする自在さは全て言葉の表現のためである。

ここまでトスティが詩のリズムを非常によく表現した歌曲を作っているように見受けられたものが、さらに、意味のつながりや意味の切れ目にも対応して旋律や和声進行にも忠実に表現する意図を読み取ることが出来たように思う。トスティは当時、まだ珍しい本格的なイタリア歌曲作曲家であったのではないかと考えられる。特に、詩の意味に沿った旋律や和声進行を感じて、そしてアゴーギクを工夫することが効果的な演奏につながるのではないだろうか。今後、本格的歌曲作曲家としてのトスティの活動を明らかにすることが、私の課題である。

参考文献

天野 恵 ほか

2010 『イタリアの詩歌 音楽的な詩、詩的な音楽』（東京：三修社）

Miscia, Gianfranco

2009 *My memories.* (Ortona: Direzione generale per gli archivi)

サンヴィターレ, フランチェスコ (Sanvitale, Francesco)

1987 『トスティ ある人生の歌 フランチェスコ・パーオロ・トスティの生涯と作品』 森田学 訳 (東京：東京堂出版) [*Il canto di una vita.* (Torino: EDT, 1996)]

山口 佳恵子 ほか

2010 『トスティ歌曲（訳詩-1） 歌と詩』（奈良：日本トスティ協会）

楽譜資料

Tosti, Francesco Paolo

1990 *Romanze su Testi di Gabriele D'Annunzio.* (Milano: Universal Music Publishing Ricordi S.r.l.)

譜例：トスティ《2つの小夜想曲》より第1曲〈薔薇の香りが漂い〉

12.

Due piccoli notturni (1911) *Al carissimo* *B.ne Giuseppe Compagna*

1. Van gli effluvi de le rose

♩ = 50
LENTAMENTE

p e molto legato

Es: I -

A

3 CANTO 庭から薔薇の香りが漂い 愛の調べが弦から響き渡る

p

Van li ef-flu-vi de le ro-se dai verzie-ri, da le cor-de van le

I V₇ I

6 魔法でいっばいの深い夜の中に遠く過ぎていく アンジャンプマン
だがプレスを置く

no-te de l'amo-re, lun-gi van per l'al-ta not-te pie-na d'in-can-

col canto

III II¹ I²

- te - - si - mi.....

A'

V I

12 青春のすっぱいワインは輝き、燃えている、人の動脈の中で

アンジャンプマン
に対応して接続

L'a-spro vin di gio-vi - nez - za bril - la ed ar-de ne ear-te rieu -

15 意味上の区切れに対応して休符を配置

アンジャンプマンに対応して接続

色っぽいぬくもりの

- ma - ne:..... re - ca l'au - ra a trat-ti un te-por vo-lut-tu -

col canto

18 女性の気配を運んでくる

アンジャンプマンに対応して接続

- o - so d'a li - ti fe - mi - ne - i.....

B

21 ひと気のない岸边に水が吹かれ、庭から薔薇の香りが漂う

意味上の区切れに対応して休符を配置

p poco rit.

Spi - ran l'acque ai so - li - ta - ri li - di;..... van - no,.....

VI III¹ C: $\text{♩} \frac{2}{4}$

24 漂いあらわれる。

a tempo

van lief - flu - vi de le ro - se dai ver - zie - ri,.....

a tempo

p

G: I

27 愛の調べが響き渡る

sentito

van le no - te de l'a - mo - re.....

はるかに

poco rit.

流星と

lun - gi e le me -

sentito

poco rit.

col canto

Es: II¹ I² $\text{♩} \frac{2}{4}$ V $\frac{7}{4}$ V₇

30

- te - o - re:.....

poco rit.

diminuendo

The image shows a musical score for a song by F. P. Tosti. It consists of four systems of music, each with a vocal line and a piano accompaniment. The first system (measures 21-23) is in 2/4 time, key of B-flat major, and features a 'poco rit.' marking. The second system (measures 24-26) is in 2/4 time, key of G major, and features an 'a tempo' marking. The third system (measures 27-29) is in 2/4 time, key of E-flat major, and features 'sentito' and 'poco rit.' markings. The fourth system (measures 30-32) is in 2/4 time, key of B-flat major, and features 'poco rit.' and 'diminuendo' markings. A box labeled 'B' is in the top left, and a callout box with the text '意味上の区切れに対応して休符を配置' points to a measure rest in the first system. Chord symbols and a key signature change are indicated below the piano part of each system.